

事業報告書 (平成 30 年度)

事業名 おいでんせえカフェ

団体名 一般社団法人おいでんせえ岡山

担当者名 逢 澤 直 子

※活動の様子がわかる写真（データもお願いします）と説明を必ず添付してください。

1. 活動内容（日時、場所、参加対象者、人数、内容等）

- 6月6日アイランドテラス
- 20日アイランドテラス
- 27日アイランドテラスメロン農家のお話会
- 7月4日アイランドテラスメロン農家のお話会
- 11日アイランドテラス
- 18日アイランドテラス、PTSDについてのお話会
- 25日アイランドテラス

- 8月8日くらしのたね
- 15日くらしのたね
- 22日まえだ診療所
- 29日アイランドテラス
- 9月5日アイランドテラス
- 12日アイランドテラス
- 19日アイランドテラス
- 26日アイランドテラス
- 10月10日アイランドテラス、牛窓の自然農農家のお話会
- 17日アイランドテラス
- 24日アイランドテラス
- 31日アイランドテラス
- 11月7日アイランドテラス
- 14日アイランドテラス、西部新拠点北長瀬の公園のお話会
- 21日アイランドテラス
- 28日アイランドテラス
- 12月5日アイランドテラス、食品添加物講座
- 12日アイランドテラス
- 19日アイランドテラス
- 1月9日まえだ診療所
- 16日アイランドテラス

23日アイランドテラス
30日アイランドテラス、ベンガラ染とカラダのお話会
●2月13日アイランドテラス
20日アイランドテラス、キャンドル作りワークショップ
27日アイランドテラス

会場：アイランドテラス北区大元、くらしのたね北区辰巳、まえだ診療所南区妹尾
参加対象者：地元、移住者
合計参加人数：145人
合計開催日：33日
毎回の内容：集うカフェ

2. ESDの視点を取り入れたところ、ESDの視点で見直したところ

「持続可能な社会づくり」県外からの移住者の生産者が岡山を選ぶ理由は、子どもたちのために持続可能な生き方を、地球を考え、自然豊かな岡山の地産地消、生産者の顔がわかる安心な野菜やお米を選択し移住を選んだ方が多いことにより、顔の見える生産者の紹介や販売、食の提供により、消費の場を作ってきました。自分の居場所を見つけ、地域貢献の場所として視点を変えられたりなど、見方の変化を見られることが良かったです。

生産者が環境配慮を考慮して生産することで、消費者の健康の維持となり、地元をはじめとして、多くの方に知っていただきました。

3. 取組の成果（参加者にどのような意識や行動の教育上の成果があったか。感想など）

・農業生産者が自信を回復し、事業としてより取り組むことが見られました。

また同じ目的で移住される方の励みにもなりました。

・実際に農園の生産者紹介することで、農を体験していただき、交流もうまれ、地域防災コミュニティへの意識も少しずつ目覚めているのが見られました。

・対話を続けながら、住む家をニーズを聞き取り、その場で探すことで安心感を与えられることができました。

・仕事を紹介または対話で聞き取ることにより、安心感を感じていただきました。

・心の内をさらけ出せる場所の確保で安全安心を感じていただき、一步前へとすすめられることへ誘う場所となりました。

4. 今後の課題と展望

定着してきたことは嬉しく思いますが、
移住されている方、下見に来られた方をきっかけとし、子育て世代の多い北長瀬学区、大元学区、その周辺の地元住民との連携ができてきたことから、
学校以外のコミュニティ作りと住み続けられる地域作りへのモデルとなることへと繋げて
いきたいです。

地域の中の一員としての気づきや、地域に貢献していきたいこと、発信したいことを
アンケートに記載してもらった時間を設けられなかったのが現状です。残念です。

おいでせえ岡山は、2011年の震災後の移住支援をきっかけとし現在まで、移住下見に来られた方、移住者、母子移住、単身者と地域住民を繋げ、双方の新たな価値創造を生み出す場を作り上げ、そのひとつとしてのおいでんせえカフェは、やりがいを地域にみいだすきっかけのひとつとなり、年間50人参加。



おいでんせえ岡山
「移住者と地元をつなぐ」ことに注力しています



出張おいでんせえカフェ
久米南町にも行きました。



おいでんせえカフェ
地域住民のお店と移住者生産のメロン&ぶどうのコラボスイーツが誕生しました。



おいでんせえカフェ
岡山県内のメディア5社に取材を受けました